

「LGBT」に関するアンケート 集計結果 (津山市人権啓発課)

回答期間:インターネット	令和4年1月13日～2月28日	(18人)
市役所(紙)	令和4年1月13日～1月26日	(7人)
図書館(紙)	令和4年2月9日～2月28日	(5人)
	合計	30人

参考	令和2年度
	市役所 7人
	図書館 18人
	合計 25人

質問1 LGBTということばを知っていましたか。

- | | |
|--------------------|----|
| ① 知っていた(意味も知っていた) | 29 |
| ② 知っていたが、意味は知らなかった | 0 |
| ③ 知らなかった | 0 |

質問2 セクシュアルマイノリティ(LGBT等)についてどのような考えや、イメージを持っていますか。(複数選択可)

- | | |
|-----------------------------|----|
| ① 性の多様性・個人の人権として尊重すべき | 25 |
| ② 受け入れがたい存在 | 1 |
| ③ 自分自身や周りに当事者がいるため、身近に感じる | 13 |
| ④ 芸能人など公表する人が増えてきたので、身近に感じる | 9 |
| ⑤ 差別や偏見を受けている | 9 |
| ⑥ オープンにできず、隠している人が多いと思う | 19 |
| ⑦ からだの性を尊重すべきである | 6 |
| ⑧ その他 | 3 |
- ・知り合いにいた
 - ・該当者が生き苦しいのは理解出来るが民主主義国家で多数の意思を踏みにじり理解を強要する愚を犯すべきではない
 - ・科学を軽視している。科学的正しさに対して「差別的」と呼び抑圧している。

質問3 セクシュアルマイノリティ(LGBT等)の方々が暮らしやすいまちをつくるための取組は必要だと思いますか。

- | | |
|----------------|----|
| ① 必要だ | 24 |
| ② どちらかといえば必要だ | 2 |
| ③ どちらかといえば必要ない | 3 |
| ④ 必要ない | 1 |

質問4 セクシュアルマイノリティ（LGBT等）の方々に対する必要な支援はなんだと思いますか。
（複数選択可）

- | | |
|--------------------------|----|
| ① 啓発活動（講演会、イベント、意識調査など） | 15 |
| ② 行政職員や教職員に対する研修の実施 | 16 |
| ③ 同性パートナーシップ宣誓制度の導入 | 23 |
| ④ 当事者が気持ちや情報を共有できる居場所づくり | 18 |
| ⑤ 支援者（アライ）の育成・支援団体の形成・運営 | 10 |
| ⑥ 専門相談窓口の設置 | 11 |
| ⑦ その他 | 4 |
- ・学校での教育
 - ・1、2は支援にならないどころか事態の悪化に拍車をかける公算大
 - ・同性婚
 - ・性教育課程など教育課程での男女二元論に偏らない教育

質問5 セクシュアルマイノリティ（LGBT等）の方々が生きづらいと感じるのはどういう場合だと思えますか。（複数選択可）

- | | |
|-------------------------------|----|
| ① 周囲の理解がない | 20 |
| ② いじめや差別や偏見を受ける | 16 |
| ③ 相談・支援体制が不十分である | 17 |
| ④ 婚姻や書類等への性別記載など法律等の整備が不十分である | 20 |
| ⑤ オープンにできず、隠して暮らさなければならない | 21 |
| ⑥ その他 | 2 |
- ・活動家が嫌悪感を持つ相手への理解を強要した結果、嫌悪を通り越して憎悪されるようになった等
 - ・男（女）はこうあるべきなどのべき論や固定観念、男女二元論などの社会的環境

質問6 セクシュアルマイノリティ（LGBT等）の方々が生産性を営むうえで直面している課題はなんだと思いますか。（複数選択可）

- | | |
|--|----|
| ① 学校生活（制服・宿泊行事・トイレ更衣室・プール） | 25 |
| ② 就労・職場（採用試験・トイレ更衣室・福利厚生制度） | 26 |
| ③ 住居（賃貸住宅の入居拒否） | 14 |
| ④ 公的サービス・社会保障 | 18 |
| ⑤ 医療（受診・パートナーの手術の同意・安否情報の提供・看護） | 21 |
| ⑥ 民間サービス（家族と同等のサービス提供 [家族割引・生命保険の受取など] | 19 |
| ⑦ その他 | 1 |
- ・子育ての希望があっても法整備されておらず妊娠や養育が困難であり、希望しているのに生産性がないなどと言われるのは心外。養育希望がある。

質問7 あなたの年齢はどれですか。

- | | |
|----------|--------------|
| ① 10歳未満 | 0 |
| ② 10歳代 | 1 (紙1) |
| ③ 20歳代 | 4 (紙1、ネット3) |
| ④ 30歳代 | 11 (紙3、ネット8) |
| ⑤ 40歳代 | 8 (紙1、ネット7) |
| ⑥ 50歳代 | 2 (紙2) |
| ⑦ 60歳代 | 1 (紙1) |
| ⑧ 70歳代 | 3 (紙3) |
| ⑨ 80歳代以上 | 0 |

質問8 あなたはセクシュアルマイノリティ（LGBT等）の当事者ですか。（任意回答）

- ① はい 9 ② いいえ 18 ③ わからない 3

質問9 質問8で「はい」と答えた方にお聞きします。

日常生活での困りごとについてお聞かせください。

- ・周りに言いづらい、2人暮らしをしにくい
- ・体が女性、心が男性です。日常的にトイレ、更衣で困ることが多い。身障者用トイレなど、誰でも入れるものが、公共の場が増えてほしい。
- ・周囲にパートナーの存在をオープンにできない。婚姻やそれに代わる制度がないため、同居しているパートナーになにかあった時が不安。カミングアウトしないだけで、津山にも同性カップルはいます！パートナーシップ制度を導入してほしいです！
- ・日常生活で出会いがない（当事者との）
- ・付き合っていることを全ての人に言えない。田舎のため、偏見も多い。
- ・「生産性が無い、ただの好みの問題、周りにそんな人はいない」等、理解されていない(理解する気がない)と感じることがある、それが議員さんのような言葉に力がある方だと余計に辛く感じる
何年も一緒に暮らしているパートナーがいても「家族」と認められにくい
性別の記入時に不本意な性を選択せざるを得ないので、不要な場合は性別欄を無いと書きやすい(医療等、体の性別が重要な場合は除く)
トランス女性のスポーツ参加といった日常生活とは離れた場面のことで批判されたり、トランスジェ

ンダーの振りをした犯罪者とひとくりにされたりと論点のずれた議論がされている。LGBT を含むセクシャルマイノリティーが暮らしやすい未来が想像しにくい

- LGBT など周りに居ない、目の前の相手がそうだと思っていない言葉が少しずつ澱のように残る。
好きな人は異性前提、結婚願望や妊娠出産、育児についてなど、したくても出来ない事がライブイベント毎にある。セクシュアリティの説明も面倒なので濁して話を合わせるのがしんどい。セクシュアリティを公言すると、異性愛者の間では友人や知人には聞かないことも突っ込んで聞いていい風潮もあり、カミングアウトの心的ハードルが高いと思う。
社会的地位認知度は以前より格段にひろまっているが、パートナーや好きになる相手は異性であるという認識が根強く、存在がない前提で話がされる。パートナーシップや国の法整備または法の認識変容があれば、社会的な存在を認識されやすくなるのかと思う。
- 異性愛者と同様に愛するパートナーと結婚したい。
結婚する事でパートナーや家族を安心させたい。
身体を変えないと結婚出来ないのは辛い。
仕事場でわざわざ自分のセクシャルリティを話したくない。特別扱いしてほしくない。
- 社会保障が受けられない
家を一緒に買っても相続できない
配偶者として同意書が書けない
異性愛者としてパートナーと暮らしているのが当たり前のように話されるので話すのが面倒、偏見もあると思うのであえて言わない